

# 大阪教区“再・新生”に向けての提言

わたしたちは1995年に発表された教区の新生計画（詳しくは「新生の明日を求めて」参照）が20年間どのように展開されてきたかを、この1年をかけて検証し、評価をしてみました。“再・新生”に向けて、次の新たな一歩を踏み出すためにわたしたちは、各地区、小教区からのアンケート結果、司牧者からの報告などをもとに、以下の通り提言を致します。

## 1 わたしたちは、新生計画の20年を神様の祝福と支えのうちに歩めたことを感謝します。

### 新生計画が生まれた経緯

第2バチカン公会議および、1987年に開かれたNICE（福音宣教推進全国会議）の精神を生かすための種々の取り組みが日本のカトリック教会でなされていく中、わたしたち大阪教区は、1995年阪神淡路大震災を体験しました。この出来事を教訓としつつ教区の宣教司牧のヴィジョンとして生まれたのが5つの教会像（※）に示される「交わり証しする教会」でした。新生計画がわたしたちの厳しい現実から出発した点は特筆すべきと思われます。

### わたしたちが取り組んだこと

わたしたちは5つの教会像をめざしてこの20年間色々なことを実践してまいりました。養成の充実、小教区・地区などの評議会の見直しと協働への取り組み、社会活動センター「シナピス」の設立、多文化共生の推進、「ブロック化」と共同・協力宣教司牧の実施、信徒奉仕職の活性化、地域に目を向けた活動等々です。

### 新生の実り

そうした中、多くの人々がこの新生計画の流れを高く評価しているとわたしたちは判断しました。20年の歩みは、わたしたちの信仰を深め、確実に育てたと思います。内輪だけで自己完結せず、福音の原点に帰り、心を開き、聖霊の息吹に信頼して生きようとしたことは、新生計画の確かな実りであったと確信します。

（※①「谷間」におかれた人々の心を生きる教会へ ②交わりの教会へ ③共同責任を担い合い、協働する教会へ ④聖霊の導きを識別しながらともに歩む教会へ⑤司祭修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任（使命）を前面に出す教会）

## 2 わたしたちは、この新生計画を、後退させることなく進めていくことを提言します。

### 神と人との交わりをめざして

第2バチカン公会議が教会を“神との親密な交わりと全人類一致のしるし、道具である”と表現したように、わたしたちは“交わり証しする教会”として、すべての人に注がれている神のいつくしみと愛を証しし、神との交わりをひろげていくために派遣されます。

### 社会と共に歩む教会へ

NICEで指摘されたように、わたしたちは社会の一員として人々と共に歩み、人々に奉仕する教会でなければなりません。この20年、社会も劇的に変わりました。わたしたち自身もこの現実社会のまっただなかで生きているのですが、そこに主キリストが共にいてくださることを信じています。この信仰に生きることによってわたしたちは身を持って福音をあかすことができます。

## イエスキリストの心を生きる

神様のいつくしみの心はイエス・キリストを通してあますことなく示されました。わたしたちはキリストにならって“仕える者”となり、この社会の谷間に置かれた人、小さくされた人々、弱い立場に置かれた人々の苦しみ痛み、悲しみに対して、無関心に陥ることなく、同伴者として生きるように努めたいと思います。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子達の喜びと希望、悲しみと苦しみでもある」と現代世界憲章序文が述べている通りです。

## 遣わされるために

派遣されるため、わたしたちは共同体としてどうあるべきか明確にしておく必要があります。新生計画はこの点に関して、「共同責任を担い合い協働する教会」をめざし、“聖職者中心で信徒がそのお手伝いをする“教会ではなく、「司祭・修道者との協力を重視しながら信徒の役割と使命を前面に出す教会」になろうとしました。これからも、ひとり一人が神から与えられた固有の賜物を活かし合い、互いを尊重し、協力一致して働いて参りたいと思います。

今後、信徒・修道者・司祭それぞれに与えられた固有の務めは何か、宣教司牧の責任者として司祭にゆだねられる役割は何か、さらに明確にしていく必要があります。

## 聖霊の導きに信頼して

新生計画は、事業を起こすためのプロジェクトやいわゆる復興計画のようなものではありません。聖霊によって促された私たち自身の信仰の刷新であり、神の国をめざして前進していくための新しいムーブメント（運動）です。現代世界における”時のしるし“を識別しながら聖霊の導きに信頼して歩んでいきたいと思います。

## 信仰を深めるために

そのためわたしたち一人ひとりの信仰を深めていくことが重要です。信仰生活の向上のために、ミサをはじめ、ゆるしの秘跡にあずかること、これらの典礼生活に加えて、新しい形の信心業を実践することが有益です。具体的には、伝統的なロザリオの祈り、十字架の道行き、聖体礼拝、巡礼などの他、一緒に聖書を読むこと、信仰の分かち合い、テゼの聖歌などを用いる新しい形の祈りの集会、ボランティア活動、黙想会、殉教者や聖人の生き方を学ぶことなどがあげられると思います。

以上述べた企画チームの思いを「新生の願い」として使徒信条のことばに深く込めることとしました。信条は、洗礼を受けたすべてのキリスト信者の生き方を表現するものだからです。

わたしたちが新生の精神を生きる新しい人となることができるように祈りながら、20周年のまとめとして、「新生の願い」と共に本提言をいたします。

2016年1月10日 主の洗礼の祝日  
新生計画20周年企画チーム